

「70点くらいの育児」をめざして

第1子 2歳10カ月(2025年2月)

もうすぐ3歳です。

あいかわらず今月も、うたっておどって遊んで笑って泣いて怒って、大いそがしです。

ロボットが好きです。

現代の精巧なロボットじゃなくて、昔風のアナログなロボットです。

本やチラシ、テレビなどで見かけると「ろぼっとろぼっと！」とよろこんで見えています。

大人がロボットのまねをするのも好きで、大笑いしています。

この頃よく食べるようになりました。

食べたり食べなかったリムラがあって困っていたのですが、お腹が空いているのか、保育園から帰宅後に自分から食卓について、ぱくぱくと食べています。

炊事をする気力もなかったり時間がなかったりする寒い夕方に、あわてて作った雑炊やスープが好評でした。

冷凍の肉や野菜を利用してささっと作ったものです。よろこんで完食しました。季節を感じました。

また、ちょっと前まではかなり冷ましてからじゃないと口にできなかつたように思うのに、あたたかい食べ物をふうふうして食べるようになり、成長を感じます。

ただ、子どもの場合は「ふうふう」と言っているだけで、ぜんぜん息は出ていないのがおもしろくかわいらしいです。

子ども2人が一緒にいると危ない場面もあるので、まだできるだけ離して生活してはいるのですが、時には下の子を叩いてしまう時もあります。

顔や頭を叩きます。

親と赤ちゃんが一緒にいる姿を見て、傷つき、腹が立ち、許せない気持ちがあると同時に、どうやら、叩くのが遊びのように感じているようです。

あまり悪気はないようです。

なるべく早く下の子をベビーベッドに退避させ、子どもをだっこして静かに言い聞かせる・・・と、そんな対処をしています。

下の子が生まれて以降、ずいぶん甘えん坊になりました。

だっこをせがみ、食べさせてくれとせがみ、手をつないであっちへ行こうと言い、いっしょに〇〇しようとして遊びに誘います。

私がそばにいて親子2人ですごす時、本当ににっこりとしあわせそうな顔で笑います。

そんな時はいつもちょっと胸がしめつけられます。いくら下の子が生まれても、この子はまだまだ幼く、親を必要としているんだと強く感じます。

赤ちゃんとの生活と並行して、これからも、ちゃんと子どもを大切にしていきたいです。

スタートが通常の半分以下サイズで、とっても小さく生まれた子どもは、すくすく成長し、すっかりもう一人前の「元気な幼児」になりました。

まだまだ小さいは小さいのですが、ひとりで着替えて、保育園に通って、しっかり自己主張もして、言葉で意思疎通もとれます。

成長をかみしめるたびに、大きくなったな、うれしいなと感謝しています。

だんだんお誕生日が近づいていることもあり、最近しみじみ思います。

これからも毎日たのしく遊んで、自分のペースで少しずつ成長してくれたらなと思います。
今から、将来、子どもにこのコラムを見せる日が楽しみです。

第2子 0歳2ヵ月(2025年2月)

しだいに顔の表情が豊かになったように感じます。
目をきょろきょろ動かして、ときどき動くものを目で追っています。

気まぐれににっこり笑います

話しかけたりあやしたりすると、時々になっこり笑います。口角をぐっと持ち上げてにこーっと笑うその顔！

一度だけ声をたてて笑いました。ほっぺたをマッサージして名前を呼んでいる時だったので、その時はもっともっとと話しかけました。

これらは大変にかわいらしく、こんな瞬間のために毎日お世話しているのかもと思うほどです。

冬なので、外出時はあたたかい帽子が必須です。

冬生まれだと、帽子はいくつがあっても良いのかもしれない。

子どもが2人に増えて、初めて知ったことがあります。

車のチャイルドシートに乗せる時、寒いということです。

1人目の頃は、子どもの隣の席に座り、ドアは閉めて、落ち着いて乗せればよかったので、何も困りませんでした。

今、車にチャイルドシートが2つ並ぶと、もう隣には座れません。大人は車の外に立って、子どもたちを乗せるしかありません。

最初は何とも思っていなかったのですが、季節柄、気候や時間帯によってはとっても寒いです。

乗せられる子どももドアが開いたままでは寒いだろうと、それも気がかりで、大急ぎで乗せています。

第1子の部分に「叩く」エピソードを書きましたが、毎日、何が正解かわからないまま暮らしています。

しかし、以前ほどは迷わなくなりました。迷っている時間がないのです。すばやく考えて、早く対応しないといけません。

とにかく、目の前の子どもに対しても、起きているトラブル対しても、早く対応して、快適に安全に暮らし続けられるように・・・と、ただそれだけです。

上の子が赤ちゃんだった頃ほどは、下の子にしっかりかまえていないように思います。

泣きっぱなしでベビーベッドで待たせている時間帯も、時にはあります。

心配に思う時もありますが、お世話するたびに、やさしく話しかけてコミュニケーションをとって、子どもに集中します。

ずっと離れずそばにいることはできないけれど、このまま丈夫に元気に育てね・・・と願うばかりです。

<最終回のごあいさつ>

このコラムを書いていた2年間を振り返ってみると・・・

1年目は不妊治療で、ずっと通院をつづけ

ときどき心身ともに参ってしまう時期もあり

このコラムにずっと登場している上の子が、心の支えでした。

2年目はほぼずっと妊娠中でした。今となれば、経過は順調だったと言えるのですが

妊娠中は、体重がガクッと落ちるような重めのつわりと、中期からの切迫早産による自宅安静が何カ月も続き、何だかあわただしくすぎていった1年でした。

そんな中でずっとこのコラムの連載を毎月つづけていただけたことは、とってもありがたいことでした。

引き受けてよかった、担当させてもらってよかったと心から思います。

このコラムは今月でおしまいです。

来月も来々月も私たちの生活はつづきます。

そして読んでくださった皆さまの生活も……。

このような機会をいただき、しあわせな2年間をすごすことができました。

一生のうちでなかなか経験できないできごとだったと思います。

これからも保育園や病院や子育て広場や市の担当部署、やさしい近所の方々などいろいろな皆さまに助けられながら

「70点くらいの育児がちょうどいい」（令和5年9月「0歳5カ月 お友だちができたよ」参照）という言葉を抱き、楽しんで子育てに取り組みたいです。

ではまたいつか……。

最後までお読みくださり、ありがとうございました！